

図2.14 多摩川【漁業権設定・魚類等放流状況】

漁業権設定状況：東京都資料・神奈川県資料・山梨県資料より
 平成16年度実績放流量：環境省調査(東京都・川崎河川漁業協同組合への平成17年度ヒアリング調査)、山梨県漁連資料より



表 2 . 3 多摩川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

対象ゾーン	流域全般	下流	上流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 「資料」の出現魚種で概ね妥当。 	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線鉄橋下の砂礫域で少量のアユが一時的に生息しているとの情報がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ウグイ・カジカ・アユ等が中心。 ウナギ・ヨシノボリ・シマドジョウが増加。 ニジマスは羽村堰より上流の本流で確認した。
再生産に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場所がある。 アユ・ウグイ・カジカ等の産卵床保全等積極的な方向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場所はいくつかあり、二子玉川上流域で良く産卵している（昭和 59-62 年調査で確認。今年度も二子玉川等にて産卵場所調査実施予定）した。 	<ul style="list-style-type: none"> アユは放流以外に今後産卵場等保全の取組み考える方向にある。 ウグイの人工産卵床を毎年本流に設置している（睦橋上流）。 平成 10 年度頃よりヤマメ発眼卵埋設放流実施している（氷川・奥多摩漁協等）。 秋川漁協にてカジカ保全計画あり。
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 遊魚対象魚種*のほとんどが放流魚である。 		<ul style="list-style-type: none"> アユ・ヤマメ・ニジマス・コイ・フナを放流している。
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 近年、水質は良くなっている。 堰が多いため近年魚道整備が進んでいる。しかし、魚道利用・効果が今後の課題である。 堰、取水施設、下水処理場が魚類の生息環境に影響するものと考えられる。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> アユは昭和 60 年以降変動あるものの、増加傾向にある（平成 14 年春には推定 100 万尾遡上）。 		

遊魚対象魚種*：アユ・ニジマス・ヤマメ・コイ・フナ・ウグイ・オイカワ・ウナギ

環境省調査（秋川漁業協同組合、東京都産業労働局水産試験場への平成 16 年度ヒアリング調査）

表2.4 淡水域(多摩川)における魚類等生息状況の変遷

	年代							増減方向	増減の理由	場所
	1940	1950	1960	1970	1980	1990	1998			
アブラハヤ						→		増加	小河内ダム表面放流後(1992~)	奥多摩
アユ						→		成長良好	小河内ダム表面放流後(1994~)	奥多摩
ウグイ						→		増加	ダムによる流量安定(1993・1994~)	奥多摩・多摩川
オイカワ						→		増加	1995年~	多摩川
コイ						?	→	増加	放流による増加	秋川
タモロコ			→	→	→	→	→	増加(急増)	1962-1963年~	多摩川
マルタ						→		増加	近年回復傾向	多摩川
モツゴ			→	→	→	→	→	増加(急増)	1962-1963年~	多摩川
アメリカザリガニ			→	→	→	→	→	増加	汚濁し始めた頃~	多摩川
イトミミズ						→		増加	近年増加傾向	多摩川
ドロムシ?						→		増加	近年増加傾向	奥多摩
シロタニガワカゲロウ						→		増加	1993・1994~	多摩川
モエビ						→		増加	近年増加傾向	多摩川
モクズガニ						→		増加	近年増加傾向	多摩川
ユスリカ						→		増加	近年増加傾向	奥多摩
ウナギ		→	→	→	→	→	→	減少	ダム完成後ダム冷水影響、石の埋没(1957~)	奥多摩
カジカ		→	→	→	→	→	→	減少	石の埋没(1958~)	奥多摩・秋川
		→	→	→	→	→	→	減少	戦後は生息(1945~)	川口川・多摩川
カマツカ		→	→	→	→	→	→	減少	ダム完成後ダム冷水影響(1957~)	奥多摩
ギバチ		→	→	→	→	→	→	減少	ダム完成後ダム冷水影響、石の埋没(1957~)	奥多摩
シマドジョウ		→	→	→	→	→	→	減少	(1961~)	多摩川
タナゴ類		→	→	→	→	→	→	減少	戦後は生息(1945~)	川口川・奥多摩
ドジョウ						?	→	減少	護岸の泥減少	秋川
マス(サクラマス)						?	→	減少	護岸の泥減少	多摩川野毛・多摩川調布
ヤツメウナギ						?	→	減少		多摩川
カワムシ						?	→	減少	浮石の減少	奥多摩
シジミ		→	→	→	→	→	→	減少	戦後は生息(1945~)	川口川・多摩川
ヒゲナガカワトビケラ		→	→	→	→	→	→	減少	1963・1964~	多摩川

→ :増加
→ :減少

出典:東京の川の生きものと環境 - 河川水生生物総合解析調査報告書(その1) - (東京都,平成10年3月)より作成
 場所()奥多摩:多摩川羽村堰から上流
 多摩川:多摩川羽村堰から下流
 多摩川野毛:世田谷区野毛周辺、多摩川府中:府中市周辺
 多摩川八王子:王子市周辺、多摩川調布:調布市周辺
 河川が併記してあるもの:両方の河川を含んだ範囲

表2.5 多摩川における出現魚種（過去の記録）

魚種	過去の記録				1973年10月～1974年11月の調査における出現魚種（捕獲魚）（は1974年度調査での追加分、支流は省略）																								
	1927-1935 羽村～丸子 (中村守純)	1957 多摩川 下流 (大島)	1972 羽村～六郷 (中村守純)	1974 府中 (梶川謙三)	昭和橋	川井堰上	〃 下	柳淵橋 (万年橋・調布の間)	多摩川橋 (羽村堰及び小作堰上)	永田橋 (羽村堰下)	拝島橋	多摩大橋	日野橋	関戸堰上	〃 下	大丸堰上	〃 下	多摩川原橋	二ヶ領上河原	二ヶ領宿河原	二子橋上	赤岩	丸子堰上	〃 下	ガス橋	多摩川大橋	六郷橋	大師橋	
淡水魚																													
水魚																													
魚																													
小計	15種	20種	22種	18種	12(7)種									25(23)種						19(7)種									
汽水魚																													
水魚																													
小計	1種	3種	22種	18種										40(30)種						8(3)種									

表注) *: 調査で確認できなかったが釣り師等の捕獲物より生息を確認できたもの
 1973(S48)年度調査：秋季(9-12月)、冬季(2-3月)、 1974(S49)年度調査：春季(5-6月)、夏季-秋季(8-11月)
 小計及び総計の()内は48年度時点での種類数

出典：東京都水産試験場(1974)「多摩川の魚類生態調査」(建設省京浜工事事務所委託調査)
 東京都水産試験場(1975)「多摩川の魚類生態調査」(建設省京浜工事事務所委託調査) から一部改変

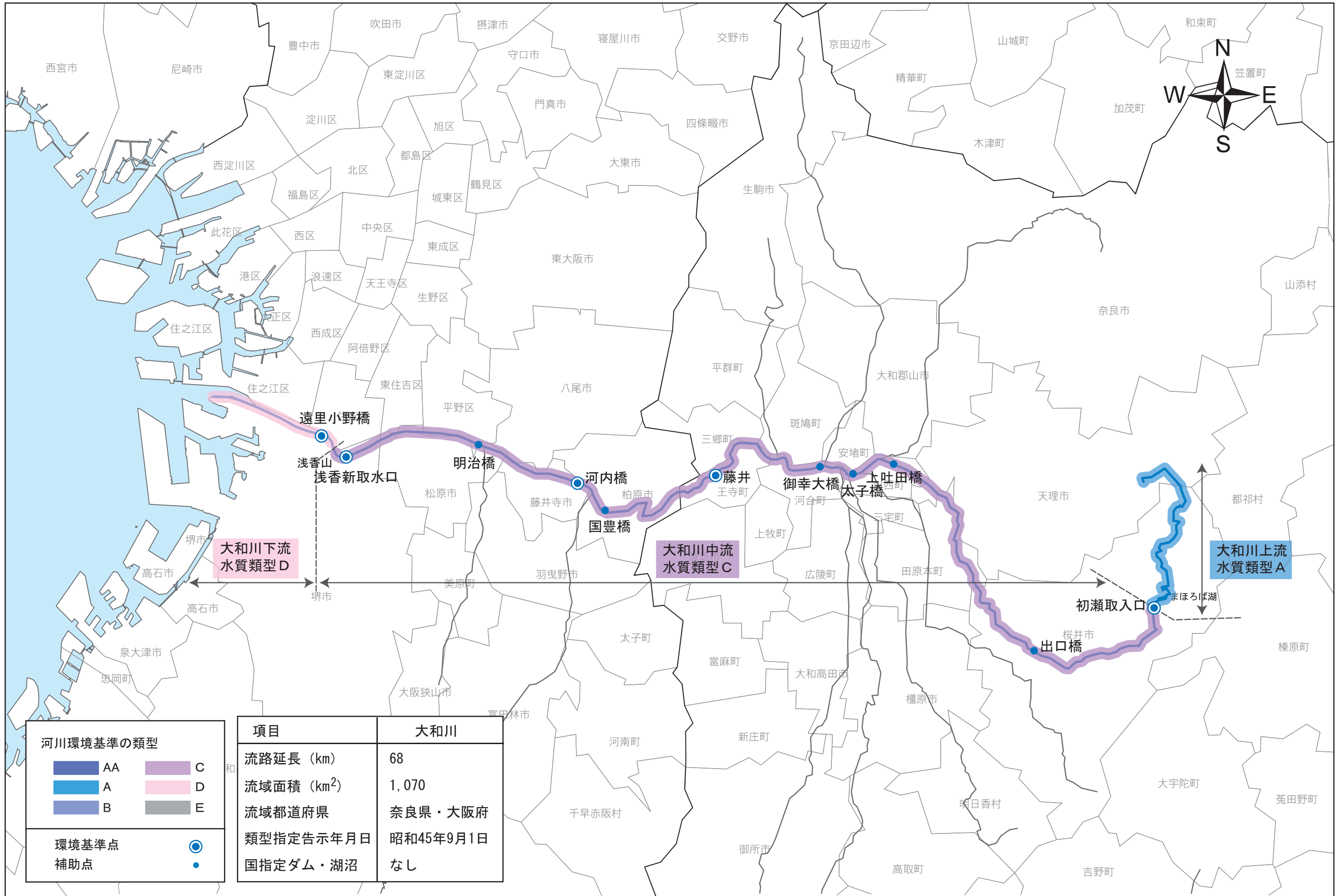


図3.1 大和川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

0 2 4 6 8 km

表3.1 近年の水質状況(大和川)

河川

水系名	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/l)				pH	
				最小 ~ 最大	平均	75%値	基準値	最小 ~ 最大	基準値
大和川上流	A	初瀬取入口	H15	0.7 ~ 3.7	1.6	1.5	2	7.5 ~ 9.4	6.5 ~ 8.5
			H14	0.8 ~ 8.5	2.0	2.2		7.5 ~ 8.9	
			H13	0.5 ~ 5.7	1.9	2.2		7.7 ~ 9.2	
大和川中流	C	藤井	H15	2.2 ~ 9.8	5.9	8.9	5	7.2 ~ 7.8	6.5 ~ 8.5
			H14	2.6 ~ 4.4	3.1	3.1		7.5 ~ 8.1	
			H13	2.6 ~ 9.8	5.4	7.7		7.4 ~ 7.9	
		河内橋	H15	1.6 ~ 7.7	4.0	5.8		7.4 ~ 8.2	
			H14	1.9 ~ 9.7	4.8	6.7		7.6 ~ 8.0	
			H13	2.0 ~ 8.2	4.6	5.9		7.6 ~ 8.0	
		浅香 新取水口	H15	1.5 ~ 24	5.0	6.1		7.4 ~ 8.0	
			H14	2.0 ~ 16	5.3	7.5		7.5 ~ 8.3	
			H13	2.2 ~ 16	6.1	7.7		7.5 ~ 7.9	
大和川下流	D	遠里小野橋	H15	2.1 ~ 9.3	5.4	7.0	8	7.6 ~ 7.9	6.0 ~ 8.5
			H14	3.9 ~ 10	6.4	7.7		7.7 ~ 8.0	
			H13	1.9 ~ 9.3	5.4	7.2		7.5 ~ 8.0	

環境基準点	年度	DO(mg/l)			SS(mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
		最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
初瀬取入口	H15	7.9 ~ 12	9.8	7.5	1 ~ 10	4	25	330 ~ 22,000	9,200	1,000
	H14	7.9 ~ 13	10		1 ~ 20	4		70 ~ 54,000	17,000	
	H13	8.4 ~ 12	10		1 ~ 16	6		49 ~ 490	220	
藤井	H15	5.2 ~ 9.5	7.6	5	6 ~ 57	14	50	7,900 ~ 230,000	63,000	-
	H14	5.4 ~ 9.6	7.4		7 ~ 13	9		17,000 ~ 230,000	71,000	
	H13	5.0 ~ 10	7.8		8 ~ 21	11		7,900 ~ 790,000	110,000	
河内橋	H15	6.4 ~ 11	8.9		5 ~ 17	11		4,900 ~ 130,000	39,000	
	H14	7.0 ~ 11	9.2		8 ~ 17	11		4,900 ~ 220,000	45,000	
	H13	7.0 ~ 11	9.0		7 ~ 30	13		2,300 ~ 920,000	140,000	
浅香 新取水口	H15	4.5 ~ 12	8.9		6 ~ 16	11		3,300 ~ 130,000	56,000	
	H14	4.2 ~ 12	9.2		7 ~ 19	12		2,300 ~ 170,000	39,000	
	H13	4.3 ~ 11	8.3		5 ~ 36	18		2,300 ~ 5,400,000	190,000	
遠里小野橋	H15	7.3 ~ 10	8.7	2	6 ~ 15	10	100	- ~ -	-	-
	H14	7.4 ~ 10	9.0		8 ~ 17	11		3,300 ~ 110,000	36,000	
	H13	6.8 ~ 10	8.4		8 ~ 43	18		2,300 ~ 540,000	110,000	

(出典: 公共用水域の水質測定結果)

・ 公共用水域水質測定結果 平成13年度～平成15年度

水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県、水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については、国土交通省地方整備局等によって実施される。

原則、河川は表層(水深の2割の位置)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層、中層(必要に応じて下層)の測定結果である。

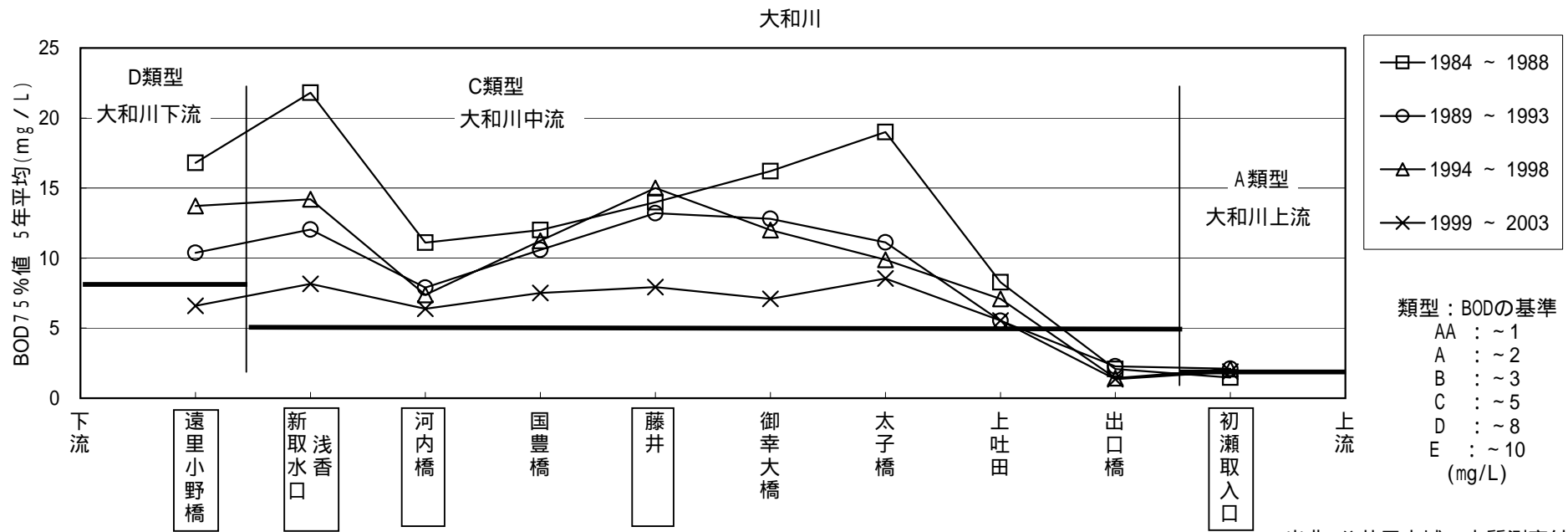


図3.2 BOD75%値の水質縦断分布

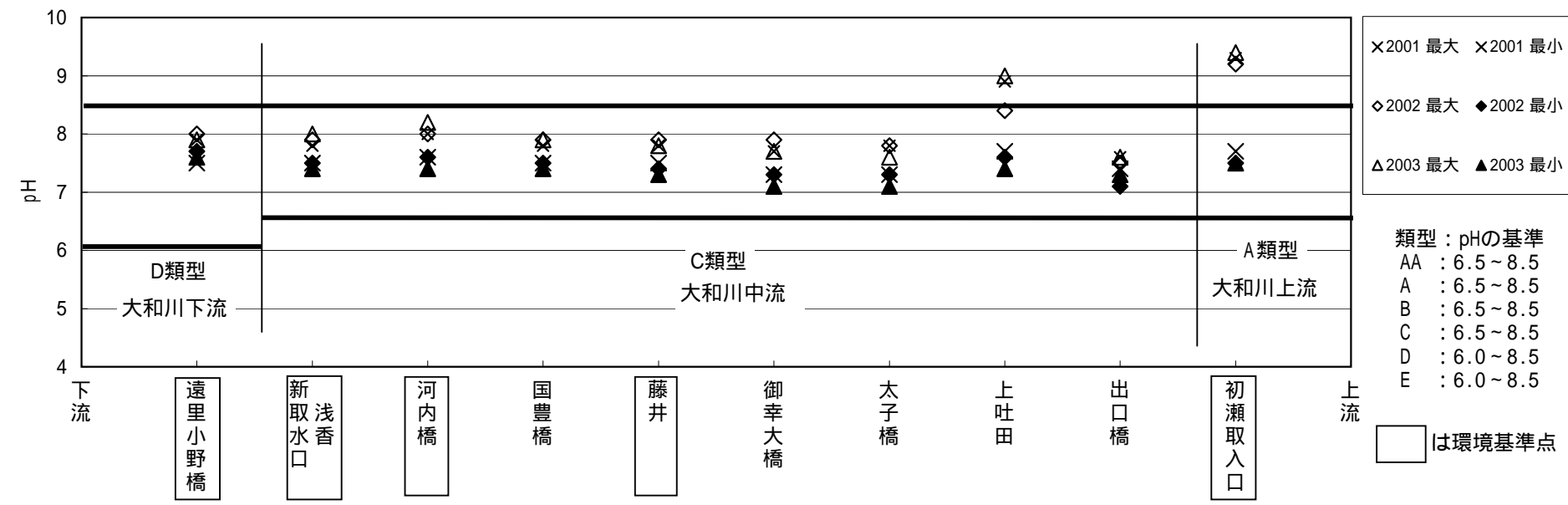


図3.3 pHの水質縦断分布

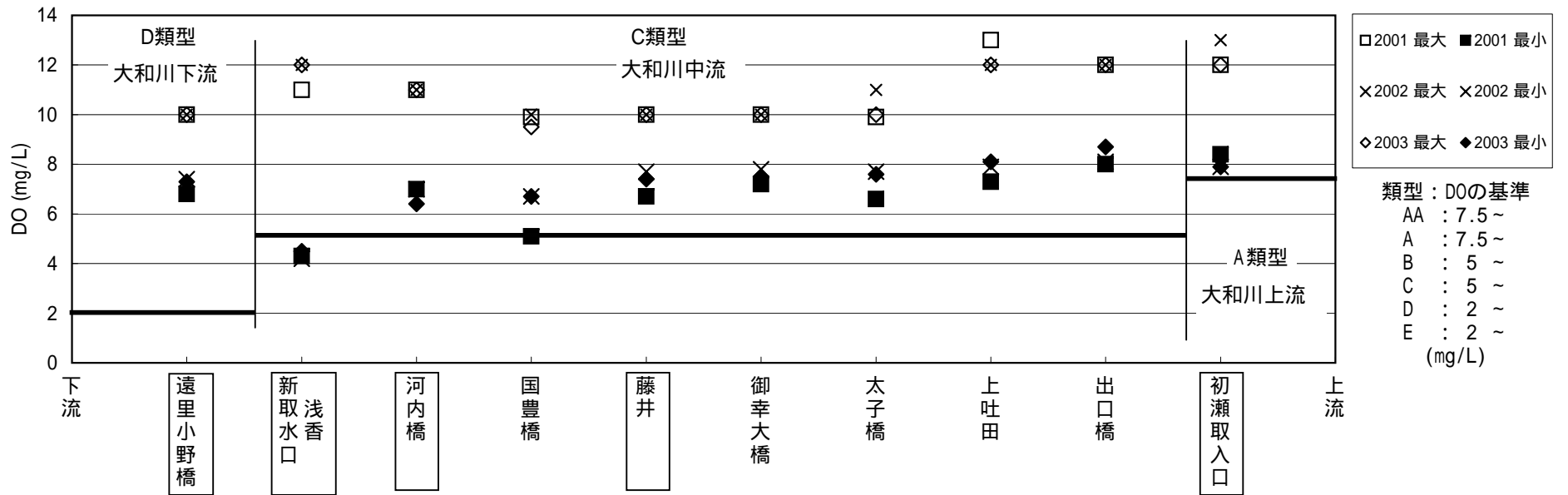


図3.4 DOの水質縦断分布

出典：公共用水域の水質測定結果